

国際センター所長 中川眞 (大学院文学研究科教授)

平成二三年四月一日に大阪市立大学に国際センターが発足しました。これまで名ばかりの国際化戦略本部というのがあったのですが、金児前学長、西澤現学長の肝煎りもあって本部の体制が整い、一年以上の準備期間を経てスタートした次第です。センター所長には私(中川)が、事務方には石井副課長以下、計六名のスタッフが働いています。これまで、研究支援課(主に学術交流)と学生支援課(主に留学生関係)に分かれていたのを一括し、企画・立案・推進・発信・情報収集などの任務を遂行しています。英語名は、**Global Exchange Office** です。

大阪市大には、これまで国際交流はあったけれど、国際戦略はなかったというのが私の感想です。各部局は海外の大学・部局と積極的に交流しています(六一校との部局間協定)。留学生受け入れにも熱心だし、国際交流は活発です。しかし大学全体の方向性、ポリシーとのかかわりは曖昧です。なかには素晴らしい芽が潜んでいるのにもかかわらず、なかなか大学は積極的にそれを活用してこなかった。大学間の包括的協定がわずか九校しかないというのが、それを物語っています。要するに、国際交流は各部局で勝手にやっておけという考え方だったのです。ここには大学の戦略というものがない。

しかし、グローバル化が大学にも押し寄せ、それにうまく対応できなかつたら大学間競争に勝てないという昨今の状況のなかで、国際戦略を放置することはできません。日本の総合大学の大半は「国際交流センター」や「国際センター」を持っているのに、なぜか大阪市大にはなかった、という恐るべき状況だったのです。しかし、遅れは致命的ではありません。むしろ、後発だからこそできる最新のアイデアや実践というものがあるはずです。そこで本稿では、国際センターの現状、今後の国際戦略の見通しなどについて、簡単に記したいと思います。

国際センターは学生・教員向けサービスの他に、学長が率いる国際化戦略本部の実務部門を担当するとともに、国際／グローバル戦略に関する具体的な方針、計画を企画して戦略本部会議に具申します。いわば、戦略本部の頭脳であり手足であるといっておよいでしょう。

西澤学長は、大学の重点項目として「都市科学」「地域貢献」「国際力」の3点を挙げています。これは大学の理念に対する、当面の施策目標です。「国際力」強化はもちろん国際センターの働きにかかってきます。センターはまず、戦略本部の命を受けて「国際化アクションプラン」策定に取り組みました。研究、教育、地域貢献、産学連携といったあらゆる活動に「国際性」が関与しています。これらの散らばっている国際ミッションを国際化戦略本部という一つのプラットフォームのなかに位置づけ、大学が着実に実行すべきためのアクションを策定しました。詳細は差し控えますが、外国語対応可能な事務職員の育成、外国語教育の充実、留学生の受け入れ方針の確立、単位や学位の質保証、国際的教育研究拠

点の充実など、重要な目標が目白押しです。

このアクションプランは国際化に向けたベーシックな取り組み課題といえますが、国内外からの優れた学生や研究者を誘引するには、差異化を意識した特色ある国際化戦略をさらにメッセージとして発信しなければなりません。その戦略は着々と練っているところですが、その一つである上海拠点の準備を紹介しましょう。その目的は、①留学生の獲得、②卒業生、同窓生のネットワーク強化、③学术交流の促進、④産学連携の推進、という四点です。その背景には、現在の市大の全留学生数（平成二三年一〇月一日現在）三一六名のうち、中国籍の学生が二五一名という現実があります。どこの大学でも概ねこういう状態です。巨大な留学生マーケットである中国に、日本の大学は優秀な留学生を獲得すべくシノギを削っています。その前線に大阪市大も参戦しようということなのです。

なぜ上海なのかというと、大阪市の上海事務所があり、市大の卒業生も多く在住していて有恒会などを舞台に同窓会組織も活発に動き、市大にとっての多くの利点があるから、ということです。既に大阪大学や早稲田大学が同様の拠点を開設していますが、同窓会の皆さんの協力を得て、パワフルできめ細かいサービスを展開していき、目的を達成していきたいと思っています。これが成功したら、第二、第三の海外拠点も夢ではなくなります。宣伝が下手な市大のイメージを覆さねばなりません。

この他、国際センターでは、研究面で市大のなかにある世界トップクラスの研究を軸に、グローバルなネットワークを二～三系づくり、市大の屋台骨にする。教育面では、英語のみで修得できる大学院コースを文・理系双方につくり、アジアのみならず欧米からも留学生を吸引するなど、国際化（グローバル化）という観点からの市大の方向性を様々に検討しているところです。どうか、この新参組織へのご支援をよろしくお願いいたします。